

ふくし“きらり人”。

題字：小林 信彦



福祉は人と出会い 人生を楽しめる仕事

小林 信彦さん

北水会グループ研修・教育担当

コネクター（いばらき中央福祉専門学校）

今回の「ふくし“きらり人。”」は、いばらき中央福祉専門学校で教員をしながら、北水会グループ研修・教育担当のコネクターとして活躍する小林信彦さんです。コネクターとは、北水会グループが独自に設ける職種で、法人内外の研修教育を担当している職種です。法人内の研修システム「step」等を運営し、年間50本ほどの研修を行う小林さんですが、「研修教育担当」ではなく「コネクター」と名付けられた職名には、「学校と現場をつなぐ」「学生と社会をつなぐ」「社会と現場をつなぐ」といった意味が込められているそうです。

小林さんに、福祉の仕事についたきっかけや、魅力について聞きました。



祖母の骨折がきっかけでー

大学で写真を学び、カメラマンのアシスタントとして働いていましたが、仕事が合わずに体調を崩してしまい、茨城に戻ってきました。

その頃、祖母が骨折で入院しており、そこで関わった看護師やヘルパーという人の生死が身近にある仕事をしている人たちにとても興味を持ち、この人たちを写真に写してみたいと思いました。

そのためにもどうしようかと考えた時に、まずは自分もその世界に入ってみようと思ったのがきっかけです。

介護の魅力にのめり込んだのはー

仕事を始めたら、写真を撮ることよりも介護の魅力にのめり込んでしまって…。

なぜ「のめり込んだ」かと言うと、たくさんのご利用者の魅力的な人生に関らせて頂けたからです。ご利用者の人生に関われるこの仕事は、自分の人生も豊かにしてくれると感じています。



**“ふくし” きらり人。 募集中！
ホームページで確認！★★★**

世の中のニーズに応える 「コネクター」という職種とはー

私たちの法人は50ほどの事業所があります。それぞれの現場職員のニーズ、世の中のニーズに対応できるように方向性を定め、まとめる必要がありました。そこで生まれたのがこの職種です。

また、「茨城の福祉を元気にするプロジェクト」、通称「いばふく」というプロジェクトも担当しています。様々なプロジェクトを法人の垣根を超えてつながった仲間と共に実施しています。



人生を楽しんだ経験が重要ー

コネクターとしては、少し俯瞰した立場で見ることが必要です。「共感」という言葉がありますが、その人と同化するのではなく、しっかり共感できている人は実はあまりいないと思います。

共感をするためには、人生を楽しんで、いろんな経験をするのが重要だと感じています。ですから、学生には、勉強はもちろんですが、しっかり遊んで、人生を楽しんでほしいと伝えています。

また、研修をする上でも、参加者に新しい刺激を受けてもらうことを意識しています。どれだけ心が動く研修をできるかが重要だと考えて、日々アイデアを練っています。

「生きる」ということを 深く学べる「福祉」ー

福祉の仕事は、様々な人との出会いがある仕事です。その出会いは私たちの人生を豊かにしてくれます。人生の先輩である高齢の方や様々な人の世界観と出会い、人生に直接触れることで、「生きる」ということを深く学ぶことができます。

誰かの人生を豊かになるよう働きかけをすると、自分の人生も豊かになる、そんな素敵な仕事が「福祉」の仕事だと思っています！